

生徒の本心を聞き、 本音で語る教師でありたい。

「どの生徒も伸ばす。それが教師の使命」と延沢恵理子先生。そのために徹底的に対話し、言葉ではないところにある本心に耳を傾けるようにしています。

「教師の10年なんてあっという間。つながらなくてもいいから、何かしら積み上げていくよう心掛けてごらんさい」という恩師の言葉を受け、毎年を有意義にするため、自分の学びのテーマを決めている。

「担当が国語なので、今年は読む力を生徒に身につけてもらうように頑張ろう、今年は書く力を伸ばそうといった具合に、何か一懸念自分自身も取り組めるテーマを決めて過ごしてきました」。延沢先生自身、10代のころ、自分の中にあるものをうまく言葉にできなくてもどかしかった。だからこそ「生徒から本音を聞き出してあげたいし、同じ土俵で私自身も本音を語りたい」と語る。

授業も生徒が本当に感じていることを引き出しながら展開できないかと思い、そのための試行錯誤を繰り返している。

どの生徒も伸ばす、がポリシーだ。「それが教師の使命だと思う」ので、一人ひとりを見て指導にあたる。「別の恩師から教わったことですが、データで語り、データを疑うということを心がけています。データはあくまで統計学。人間は平均値ではないから、一律の指導ではダメだと思う」

生徒にはちょっと高めめの目標にチャレンジしてもらおう。「生徒が少し背伸びをして頑張っている姿は見ていて清々しい」。そして、少しでも高めへ行けた生徒は必ず褒める。「苦労をやり甲斐に変えるのは、他人からの『よくやったね』『すごいね』というひと言。認められると次も頑張る力が湧いてくるものです、人間って」。

進路は人づくり 一人で頑張れる生徒を育てたい

進路指導も結局は人づくり。最終的に一人でも頑張れる人になってほしい。「団結してみんなで頑張ることも大切だけど、追い込まれた時、自分一人でもがんばれる人にならないと。どんな環境に置かれても、ベストを尽くせる人になってもらいたい」

出身は仙台。震災で思い出の地の一部を失った。そのせいか最近、自分の使命＝「命の使い方」について考える。「これまでさまざまな人や生徒たちにたくさんのもをもらった。それらを次世代へ橋渡ししていくことが今の私の使命だと思っています」

イケてる
センセー!!
vol.9



山形・県立新庄北高校
のべさわ
延沢恵理子先生 (41歳)

宮城・仙台白百合学園高校、山形大学教育学部(現地域教育文化学部)卒。山形県立谷地(やち)高校7年、楯岡(たておか)高校7年を経て09年より現任教へ。担当教科は国語。新規採用から19年のうち16年進路指導に携わる。「自分たちがつながら、学び合うことが生徒の役に立つ」と、高校の進路指導に携わる女性の先生有志で「進路女子会」を結成。さまざまな研究会に参加するため、全国も飛び回る。高校では生徒とバンドやボランティア活動も。15歳と3歳の母親でもある。

fan message



「これがいい!」と思ったらブルドーザーのように突き進む行動派。でも細やかな感受性もあり、常に周りを配慮されています。さまざまな研究会に参加されていますが、その切磋琢磨もすべて生徒のためという軸が絶対にぶれない。そこが素晴らしいです。(青森・県立弘前高校 千葉栄美先生)



「その時、感じた気持ちを生徒に反芻してほしいから」、行事のたびにポスターを作り、掲示する。